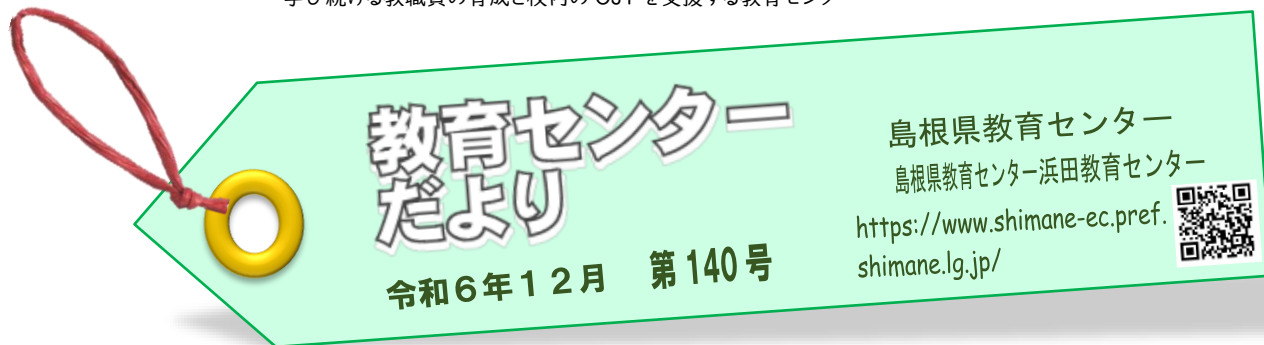
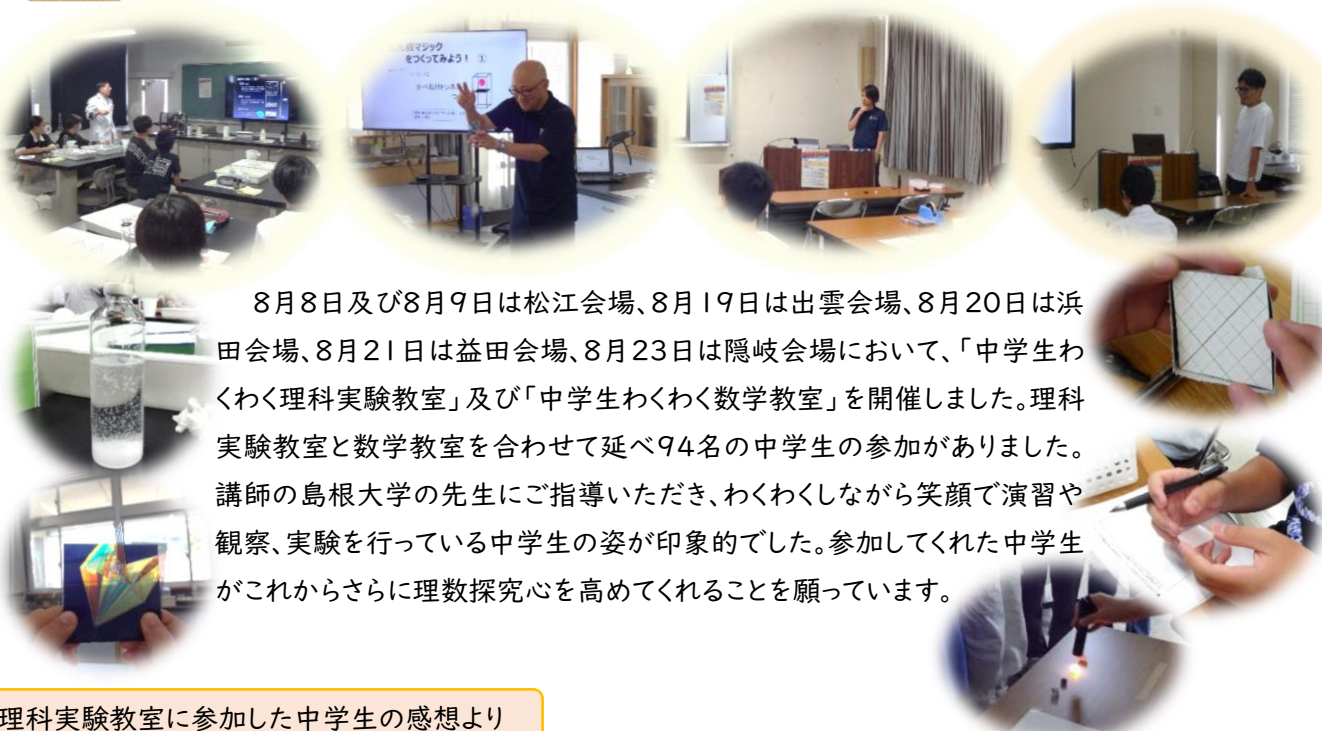




中学生わくわく理科実験教室

中学生わくわく数学教室



8月8日及び8月9日は松江会場、8月19日は出雲会場、8月20日は浜田会場、8月21日は益田会場、8月23日は隠岐会場において、「中学生わくわく理科実験教室」及び「中学生わくわく数学教室」を開催しました。理科実験教室と数学教室を合わせて延べ94名の中学生の参加がありました。講師の島根大学の先生にご指導いただき、わくわくしながら笑顔で演習や観察、実験を行っている中学生の姿が印象的でした。参加してくれた中学生がこれからさらに理数探究心を高めてくれることを願っています。

理科実験教室に参加した中学生の感想より

石が身近ないろいろなところで使われていることがわかったし、テレビ石のような鉱物が自然の中でできることにびっくりしました。いろいろな鉱物を知りたいと思いました。また、このような機会があれば参加したいです。

ストームグラスが気温によって変化していく理由がわかって、なるほどと思いました。結晶にもたくさん種類があったり、同じ結晶の種類だけれど宝石が違う色になっていたりしておもしろかったです。実験で2つの薬品を混ぜたときに雪みたいなものができてびっくりしました。

数学教室に参加した中学生の感想より

「数学」ってこんなに面白いんだなと改めて感じました。グループ活動では、他の学校、他の学年の人と協力することで、よりよい答えを導き出せました。いろいろな解法があり、とても面白かったです。

難しく考えなくても、まずは分かるところから確認していけば簡単に分かるんだということを知りました。そして、試してみることも大切だと思いました。試してみてダメだったらまた試すことを繰り返すことで、新しい発見ができることが分かりました。今日はそれがよくわかる授業でとても楽しかったです。





クラウド環境を生かした授業を 考えてみませんか

島根県教育センター 研究・情報スタッフ

GIGA スクール構想で整備されたクラウドをベースとしたデジタル学習基盤は、今や学習者主体の学びを支える重要なインフラです。文部科学省はデジタル教科書をはじめとしたデジタルコンテンツも活用しながら、授業だけでなく家庭・地域でも「主体的・対話的で深い学び」を行える環境整備を進めています。様々な背景をもつ児童生徒一人ひとりに「個別最適な学び」を提供するため、クラウド環境を活用した授業づくりを考えることは資質・能力を育成する授業改善の第一歩です。10月後半に実施した2つの能力開発研修の受講者アンケートの記述から、研修での学びの一部を紹介します。

10/22(火) 集合研修

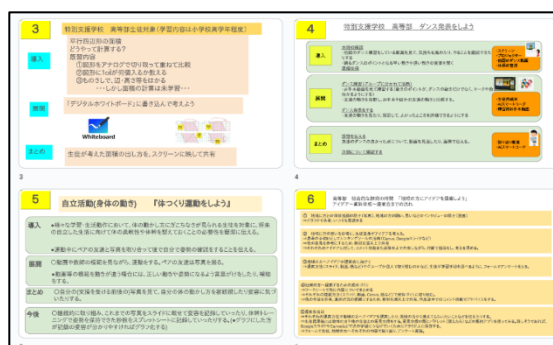
[1287] GIGA スクール時代のクラウド活用講座(Google Workspace for education)

○昔は「カンニング」、今は「他者参照」

- ・知識を覚えることよりも、考え方のトレーニングが重視される時代になっている。
- ・スライドは子ども同士が状況を共有するツールとして活用できると分かった。

○児童生徒が主語の ICT 活用に

- ・日々の自分の実践が指導者が主語となる ICT の活用であったことに気付いた。
- ・学習進度の異なる生徒の個別学習で ICT を使用してみたい。



「他者参照」
一人1スライドで授業案を作成。
作業の状況はいつでも見られる。

10/30(水) ハイブリッド研修(集合あるいはオンライン)

[1288] GIGA スクール時代の NHK for school 活用講座

○校種問わず応用できそうな動画が豊富

- ・番組だけでなく、クリップも活用して見通しをもって構成したい。
- ・教科書や学習指導要領から番組を選ぶことができると分かった。幅広くコンテンツを見ていくことも大切。

○子ども自ら学べる環境づくりのきっかけに

- ・「プレイリスト」機能で必要な情報の中で生徒が自ら学べる学習環境を整えることができる。
- ・教員が見せたいものを指定して検索させるのではなく「プレイリスト」を作って共有できやすくなる。

NHK for School
の使い方(動画)



中国・四国地区教育研究所連盟研究協議会（島根大会）報告

10月10日(木)から10月11日(金)にかけて、島根県民会館にて「中国・四国地区教育研究所連盟研究協議会 島根大会」が開催されました。これは、中国・四国地区の教育研究機関が年に一度集まり、相互に連携を図るとともに、教育に関する研究成果や情報交換を行うものです。54年目を迎える本大会では、国立教育政策研究所 初等中等教育研究部 白水 始 副部長・総括研究官をお招きし、「テクノロジーと教育の未来」というテーマでご講演をいただきました。また、研究発表等を通して各機関の取組について共有し、時代に応じた教育課題の解決策について協議しました。本大会で得た様々な情報を今後の取組に活かしていくとともに、これからも教育や教育をめぐる諸課題について研究し、その成果を活かして、研修等の事業の充実に努めて参ります。

「ふつう」とは？

どうしてかな？

それは子ども理解の第一歩

島根県教育センター教育相談スタッフ

特別支援教育セクション

教育センターでは、この秋、「特別支援教育専門講座」と「すべての教職員に役立つ！支援につながる子どもの理解講座」の2つの人気講座を開催しました。どちらも講師の先生からたくさんの学びをいただきました。その様子をお知らせします。

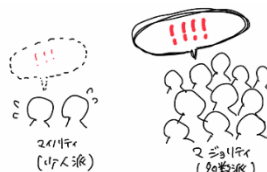
「インクルーシブ教育に向けて今できること ー通常学級の教育を考えるー」

ノートルダム清心女子大学人間生活学部児童学科准教授

インクルーシブ教育研究センター長 青山新吾先生

通常の学級でインクルーシブ教育を進めていくために必要なことについて詳しくお話していただきましたが、その一つとして挙げられたのが『やさしいどうして！？』の考えです。多様な子どもたちを理解するためには、日常の子どもたちの言動の背景要因に「どうして？」と目を向けていくことが欠かせません。青山先生は『やさしいどうして？』とは“どうしてかなあ？”と子どもと一緒に考えるスタンスであると述べられました。私たち自身はどんな「どうして？」のまなざしをどのように子どもたちにおけていけるのか、改めて見つめなおす視点をいただきました。

また、**マジョリティとマイノリティ**の話も印象的でした。「学級はマジョリティ（多数派）の意見に偏っていないだろうか。マイノリティ側（少数派）の困難や気持ちに寄り添うことができるかどうかが重要である」とおっしゃいました。学校という場所では、「ふつうはそう」とか「多数がそうだから」とか「前例がそう」という理由で物事が動いていることがよくあるのではないのでしょうか。でも、そうではない考えや事情の場合も少なからずあります。そのマイノリティの立場が自分を抑えたり我慢したりすることがないように考えていかなければならないと感じました。



絵：センターによる解釈



受講者のアンケートより

- ・丁寧な対話と多様な視点についての大切さを再認識した。
- ・自分に余裕がなくなると、「怖いどうして!?」「圧のあるどうして!?」を発動しがちになる。「やさしいどうして!?」が当たり前になるようにしたい。
- ・何となく、人と同じようにとかみんなと揃えてとか考えがちだが、揃わなくても良いと教員側が思えば、楽になる生徒がいるだろうなと思った。

「特別な教育的支援を必要とする 子どもの理解と支援」

宮城学院女子大学教育学部教育学科教授

梅田真理先生

発達障がいについての知識、具体的な支援方法、子どもを支援するための校内体制、そして保護者との連携についてのお話をいただきました。「ふつうとは何？」という問いかけから始まった講義でした。子どもたちは多様な存在であるため、「ふつうの」ということはなく、障がいの有無にかかわらず、「子ども一人一人に合わせた目標」をもち、その目標を基に授業を考えることが大切だとおっしゃいました。

また、特別視しすぎる支援は子どもの疎外感や孤立感を増してしまうこともあり、学級集団における支援は**個と集団の支援のバランス**が大事であるという内容が印象的でした。梅田先生にはそのためにどうすればいいのか、事例を交えてお話いただき、受講者のみなさんからますます実践できると大好評でした。

受講者のアンケートより

- ・障がいのある児童もない児童も安心して学ぶことができる場の設定が必要だということがわかり、少しずつでも学級で実践できるようにしていきたいと思った。
- ・ライフステージを意識して、目の前の子どもたちにはどんなスキルが必要か整理し、根気強く指導を続けたい。

新任教職員研修第Ⅳ回教育センター研修の「特別支援教育」の講義の中でも、「特別支援教育はもはや特別なものではない」とお話をさせていただきました。特別な教育的ニーズのある子どもたちだけに支援や援助を行うのではなく、すべての子どもたちの笑顔のためにできることは何か考えていきたいですね。

しまね教育魅力化ビジョン「ふるさと島根を学びの原点に 未来にはばたく 心豊かな人づくり」

学び続ける教職員の育成と校内の OJT を支援する教育センター

経験年数に応じた研修

テーマ・能力開発研修



6 年目・中堅教諭等資質向上研修



中・高等学校音楽科教育講座



中学校特別活動講座



初任者研修



ミドルリーダー育成研修



小学校図画工作科教育講座

HAMADA EDUCATION CENTER

浜田教育センター 研究・研修スタッフ

STUDY & SEMINAR STAFF

さまざまな方法で
学校をサポート
しています。

これからも
ともに学んで
いきましょう。

学校訪問

出前講座



初任者学校訪問面談



授業研究



Well-being な生き方を目指して
～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実～



市郡教研研修会



特別活動(学級活動)の授業づくり



「考え、議論する」道徳の授業づくり

スタッフ研究

R6 研究テーマ「学校の自走をアシストⅡ！ 校内研究を支援するための方策」

個別最適な学びと
協働的な学びの
一体的な充実に関する一考察

島根県教育センター浜田教育センター
研究・研修スタッフ 共同研究

R5 研究成果物 校内研修活用動画



R6 中四国教育研究所連盟研究協議会にて研究発表